

神戸市総合基本計画審議会第4回市民生活部会 議事要旨

日時：平成22年3月25日（木）13：30～15：30

場所：三宮研修センター5階505号室

出席者：松原部会長ほか委員12名

【議事要旨】

- ・事務局より、これまでの審議経過（資料2）及び第2回総会の議事要旨（資料3）の説明を行った。
- ・会長により議事に入る旨の発言があり、事務局に対して資料の説明を求めた。
- ・事務局より、全体構成の考え方（資料5）、及び指針素案のうち市民生活部会の所管事項部分（資料6）の説明を行った。（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

【全体を通じて】

- ・計画策定の前提、取り組みの方向性、そして支える仕組みやまちのあり様などが記載されている。このようなまとめ方もあり得ると肯定的に理解している。
- ・どのような神戸を目指すのかが浮き彫りにされる第7部では、もう少しイメージが膨らむような表現にできないか。『協創』という新しい言葉より、もっと分かりやすい言葉の方が良いのではないか。
- ・「ひとが集い・交わり・活きる『協創』のまち」の『協創』が分かりにくいという意見があったが、「人が集い、交わり、活きるまちを『協創』で」とすれば分かりやすいのではないか。
（事務局）
 - ・『協創』は、これまで取り組んできた「協働と参画」をさらに進めて、ともにまちづくりを進めようという考え方を表すものであり、新しい言葉とは考えていない。
- ・綺麗にまとまっていて異論は無いが、市民目線で見ると綺麗にまとまり過ぎていて現実味が湧かない。文章が優等生的であり、面白くない。堅すぎずに、市民が食いつきたくくなるような書き方をしてはどうか。
- ・記載が具体的に欠けるのは指摘のとおりだが、基本計画は最上位の計画であり、具体的な記述は個別の計画でカバーされる。具体的な記述は、長期間の基本計画では難しいのではないか。
- ・協働と参画を貫くことになっているのだから、全編にわたって、行政側の役割、市民・地域側の役割、協働で行うこと3層に分けて整理できないか。
- ・全般を通じて、個人、市民全体、地域、行政の別に綺麗に書くことは難しいが、誰がやろうとしているのか推察がつくような文章表現を考えるべき。
- ・抽象的な表現に感じるのは、記載方法の影響もあるのではないか。「～を通じて、～します。」という表現ではなく、「～のために、～をする。」と記載してはどうか。
- ・全体を通じて、今後15年間で取り組むべきことを「例えば～によって」などと例示するなど、具体的に書いた方が良い。
（事務局）
 - ・先駆的な取り組みをコラムとして掲載することなどを検討している。

【ともに支えあう社会をつくる（第2部）について】

（現状と課題について）

- ・見守りや介護等を要する高齢者が増加することから、在宅医療ニーズの高まりについても記載するほうが良い。
- ・増加傾向にある障害者に加え、うつ傾向にある人、アルコール依存症の人、自殺願望者等に対する精神面のケアの必要性を記載するほうが良い。
- ・「虐待」という表現は前後のつながり上唐突であるため、「子育てに悩む親の支援」とするなど、ともに支えあう必要性や、支援の対象となる人を記載する形に整理が必要ではないか。

（めざす姿について）

- ・取り組み主体として「地域医療機関」も記載するほうが良い。
- ・「障害者が周囲から必要とされる」という表現は、障害者にとってプレッシャーにならないか。
- ・住み慣れた地域の中で障害者を孤立させないことが大切であると思う。
- ・ともに支えあうより、むしろ持てる能力を出し合って貢献し合う方がポジティブに響く。文中では「自分なりに社会に貢献」と表現できないか。

（ともに進める取り組みについて）

- ・ともに支えあう社会をつくるという事は、社会生活を送る上で一番困っている、悩んでいる、大変な人を全力で応援するというを示せれば良い。

【安心なくらしを守る（第2部）について】

（ともに進める取り組みについて）

- ・P27の①-キの「自分たちの健康は自分たちで守る」という理念のもと」という表現は、健康でない人などは社会の隅に追いやられる印象を受ける。理念ではなく心構えではないか。

【一人ひとりを大切にする（第3部）について】

- ・文面は素晴らしいが、本当にこのとおりにやっていけるか気になる。
- ・仁川との友好都市提携は素晴らしいことだ。

（ともに進める取り組みについて）

- ・国際都市神戸として、主要な役所の窓口には通訳の配置を願いたい。
- ・神戸は昔から外国人にとって非常に住みやすいまちである。
- ・外国人といっても神戸には何十か国の人が住んでおり、その中には困っている人もいない人もいる。どのようなことに一番困っているのか調査できないか。
- ・外国人にとって一番大切なことは医療関係だと思う。
- ・外国人の中にも様々な状況の外国人がいるということは、子どもや障害者などにも該当する話である。
- ・一人ひとりを大切にするには、いかに人権を守っていく社会をつくるかという視点が必要である。

【子どもを健やかに育む（第3部）について】

（めざす姿について）

- ・神戸の子ども達には、心豊かにたくましく生きる人間となってほしい。子ども達の心の核になるのは、自分の属している組織の知識をベースにした思いやり、愛、神戸への思いではないか。

- ・めざす姿は、今の案ぐらいで収めないと収拾がつかなくなる。
(ともに進める取り組みについて)
- ・P41の④「子どもの安全・安心や生活環境を守ります」について、もう少し具体的な記載のほうが良い。
- ・P41の⑤「保護が必要な子どもへの対応を充実します」における発達障害にかかる記載は、成年した人も含めて「発達障害児(者)」にしてはどうか。
- ・計画は、こういう形になると市民に分かる表現にするほうが良い。例えば、P41の⑥「生きるための基盤づくり」も、「子どもが笑顔で通えるような学校をつくります」とし、そのために、「確かな学力を育てます」と表現するほうが良い。また、健康・体力は別の項目にするなどほうが良い。
- ・P41の⑥-エは、読む側からすれば、「グローバル社会をたくましく生きるためのコミュニケーション能力」とするなど、行政目線ではなく、市民目線の表現に改めたほうが良い。
- ・P42の⑦は「市民の信頼に応える学校力の向上や教育力の向上」とすれば信頼を回復することが伝わる。
- ・P42の⑧は「市民が楽しめるスポーツや生きがい」としてはどうか。
- ・日本の教育のキーワードは「豊かな心」と「生きる力」であり反論のしようがないが、具体化は難しい。
- ・豊かな心の一つは、自分を律する、我慢する心。思いやりや愛情を入れることもできるかもしれない。なかなか結論の出ない話だが、議論が煮詰まって方向性が出るようであれば載せればよいのではないかと。

【まちの安全を確保する（第4部）について】

- ・学校や区役所等の公共施設、橋梁等の耐震化は進んでいるか。

【みんなでわがまちを育む（第6部）について】

- ・コミュニティづくりは、人材育成やネットワークづくりのプロセスになる。地域コミュニティは、見守りや医療、防災などを担う必要があるが、それらに係る記載がない。主体別に書くことも重なるが、再掲するなど工夫できないか。
 - ・コミュニティの担い手は高齢の方が多く、若い人や新しい人が入り込んでいないという現実がある。これまでも色々な仕掛けをしているが中々活かされておらず、果たして実現できるのかと不安になる。
- ・引き続き、「今後の審議日程（資料7）」の説明を求め、事務局より資料に基づき説明を行った。
 - ・会長により閉会が告げられ、本会議は終了した。

以 上